たばやま

人 × 地域 × 絆

丹波山村

山梨県丹波山村　村勢要覧　2018

丹波山村
山梨県丹波山村　村勢要覧　2018

GREEN PRINTING JPPI
P-B10002
RICE INK
VEGETABLE OIL INK
この印刷物は環境にやさしい植物性インキを使用しています。

人と地域と絆と未来へ

プロローグ

たばやまの創造力

悠久の時を経ても変わることのない多摩川の源流、丹波川と雲取山、飛龍山、大菩薩嶺。この村の美しい姿、雄大な自然、そして人々の営みは、今も丹波山の人の真心によって大切に受け継がれています。

丹波山村　村勢要覧　目次

Contents

プロローグ　人 × 地域 × 絆
次世代へ〜私たちは、考えます
村長と新成人　FUTURE TALK ——— 02

特集1　ひとりひとりの思いが集まれば、大きな力に。
丹波山村で生きる 新たな時代へ 丹波山人
さまざまな取組み ——— 04

特集2　伝統の味や技。様々な味わいを訪ねて
山の恵み　村のいいもの。——— 11

丹波山村のじかん。——— 15
おしえてあげたい、村のいろんなコト。

ささら、さらさらと〜この村で舞う ——— 16

絶景に会いに〜山へ、いらっしゃい ——— 18

丹波山ブランド ——— 22

歳時記 ——— 24

議会 ——— 25

村の四季、彩り ——— 26

時をつなぐ・感動をつなぐ〜私たちの村 ——— 28

エピローグ ——— 32

たばやま

山梨県 丹波山村

［FUTURE TALK］

丹波山村

次世代の未来に、私たちは、考えます。何を残すのか

丹波山村は東京都と山梨県の県境にあり、村全体が秩父多摩甲斐国立公園内に位置しています。周囲を雲取山や飛龍山、大菩薩領など2000m級の高峰に囲まれ、東京都民の貴重な水源である多摩川に注ぐ清らかな丹波川を有する「豊かな大自然」が魅力の村です。

2018年1月に、村からは4名の新成人が誕生しました。この村で育った彼女達の思う「丹波山村の自慢」をたずねると、

・自然が豊かでのびのびと暮らせる。
・村民がみな元気で心が温かい。
・獅子舞やお松引きといった伝統行事が今でも昔と変わらず受け継がれている。
・学生一人一人に手厚い支援がある。

といった嬉しい意見が聞かれました。

村の人口は現在約600人。子どもは保育所児5人、小学生10人、中学生10人と村の過疎化は危機的状況にあります。でも私たちは明るい未来へ向けて持続・発展していくことを目指して様々な施策に取り組んでいます。

村のこれからの夢や未来、アイデアについて新成人のみなさんにも考えていただきました。

・働き盛りの人が働きやすい環境づくりをする。
・若者が帰ってきたくなるような村づくりのため、方向性を明確にし足並みを揃えることが大事。
・耕作放棄地や空き家、空き地を再利用し農業体験施設を作る。
・ロケ地としてアピールする。
・青梅街道沿いのまち並みを整備する。

など具体的な案が出ました。

私たちは山村ならではの住民同士のふれあいや共助する姿を誇りに感じています。「人と人を結ぶ絆」はこれからもずっと大切にしながら、村を元気にする地域づくりに積極的に取り組んでいきます。

人×地域×絆

TABAYAMAVILLAGE

木下恵香（きのしたあやか）さん
新成人

嶋﨑愛子（しまざきあいこ）さん
新成人

木下真実（きのしたまみ）さん
新成人

村長　舩木 良教

木下美里（きのしたみさと）さん
新成人

丹波山村 マスコットキャラクター
タバスキー
平成9年 10月考案　誕生 20年

Tabayamabito

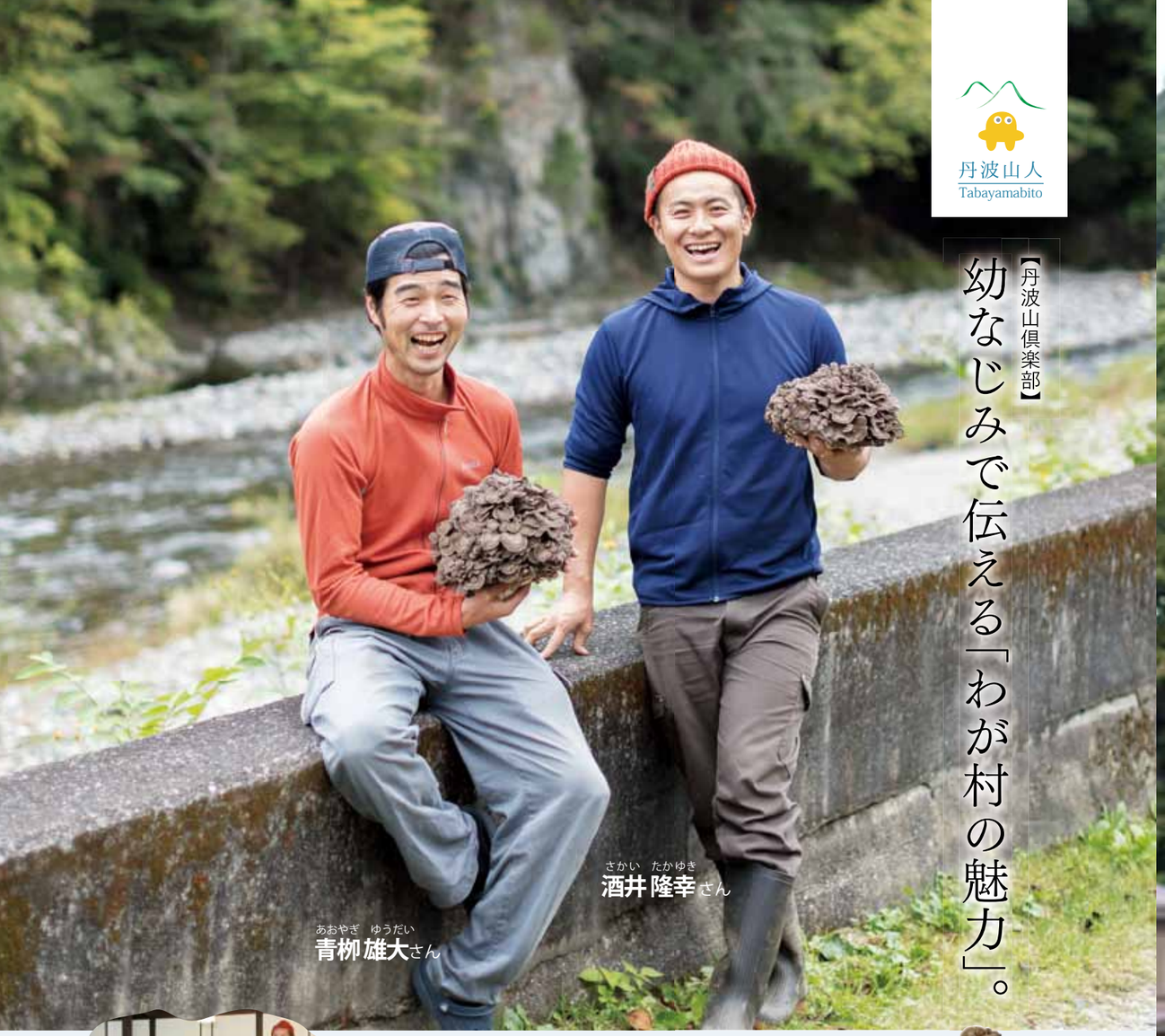
丹波山人

ひとりひとりの思いが
集まれば大きな力に

丹波山村で生きる

人と人とのつながりをとても大切にしている丹波山村。
世代を超え育まれる尊い絆は、住む人々の魂をゆさぶる。
あたたかな笑顔のその先は、未来へと。

丹波山人
Tabayamabito



【丹波山倶楽部】

幼なじみで伝える「わが村の魅力」。

酒井隆幸（さかい たかゆき）さん

青柳雄大（あおやぎ ゆうだい）さん

村の「今」を体験して
旬の農産物を味わってほしい

青柳 雄大

私は丹波山村で生まれ育ち、大学進学を機に東京へ出ました。大学時代は村出身の幼なじみの酒井さんとよくお酒を飲んでは村のことについて話していました。そして、「村には外に誇れる豊かな観光資源や食材がたくさんあるのにもったいないよね、それなら僕らがやろう！」と意気投合し、大学卒業後に村へ帰って会社を設立したのが、現在の丹波山倶楽部の始まりです。

丹波山倶楽部は、丹波山の自然を愛し、丹波山の農産物や自然体験、イベント参加等を通して自然と密着した生活と文化を楽しもうという人々が集う場です。農業体験、山登り、川遊び、キャンプなど村のありのままの豊かな自然に存分に触れられる様々な企画を提供しています。これらはみな私たちが子どもの頃に普通にやっていたことですが、それが今の仕事につながっています。

倶楽部では舞茸の栽培を中心に農業も行っています。村には年間を通じて収穫できる農産物の他、きのこなど山の幸、川魚、ジビエといった季節ごとに楽しめる食材があります。是非多くの方に来ていただいて村自慢の旬の食べ物を味わってもらいたいです。

地域おこし協力隊

丹波山人
Tabayamabito

【ジビエで地域おこし】

保坂（ほさか） 幸徳（ゆきのり）さん

【狼伝承で地域おこし】

寺崎（てらさき） 美紅（みく）さん

【林業で地域おこし】

佐藤（さとう） 駿一（しゅんいち）さん

地域おこし協力隊に聞く

僕らが取り組む村のあんなコトやこんなコト。

「我らは村のポテンシャルを引き出す隊！」

丹波山村が本来もっている良さを引き出して村を元気にしたい！
そして自分自身も人として成長したい！そんな熱い志をもって地域外から移住し活動している
「地域おこし協力隊」の3人。日々どんな思いで取り組んでいるのでしょうか。

大学では林学科に在籍し、奥多摩に大学の演習林があったので、丹波山村もよく通りかかっていました。とても良いところなので、学生時代から漠然とこのあたりで林業を仕事にしていければいいな、と考えていました。

就職活動時期にちょうど丹波山村が林業で協力隊を募集していると知りました。林業での募集は数が少ないですが、幸運にも馴染みのある丹波山村が募集していたのでここで林業をしようと決めました。

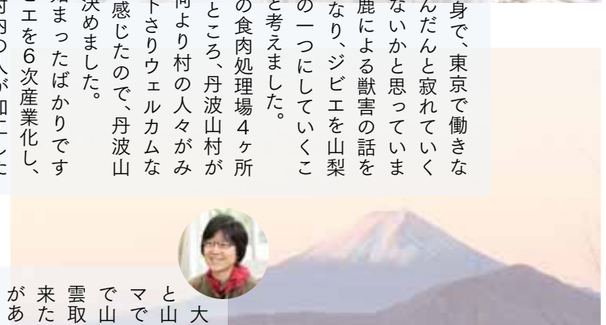
村は林業がほぼ無いに等しい状態なので、道具を揃えるところからのスタートでした。森林整備を希望している持ち主さんもいらっしゃるので、そういう方を見つけながら声かけも進めています。

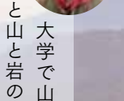
仕事をしながら自分の林業の勉強を続けることができ、身につけたスキルをまた仕事に還元していけるのが面白いところです。

私は山梨県出身で、東京で働きながらも地元がだんだんと寂れていくのを何とかできないかと思っていました。そんな折、鹿による獣害の話を耳にするようになり、ジビエを山梨の特産品の目玉の一つにしていくことはできないかと考えました。

さっそく県内の食肉処理場4ヶ所を当たってみたところ、丹波山村がまだ未開拓で、何より村の人々がみな温かく接して下さりウェルカムな雰囲気に魅力を感じたので、丹波山村に来ることに決めました。

活動はまだ始まったばかりですが、いずれはジビエを6次産業化し、村内の人が獲り村内の人が加工したものを村外へ売るというシステムを確立していきたいです。そして過疎の村が人口減少を食い止めたモデルとなり、同じような問題を抱える市町村のリーディングになれたらと思います。





大学で山岳信仰について学び、狼と山と岩の信仰がメインの研究テーマでした。それでフィールドワークで山にはしょっちゅう登っていて、雲取山や飛龍山、のめこい湯などに来たことがあり丹波山村には馴染みがありました。

就職活動真っ只中に、たまたま知り合った登山仲間の方から、丹波山村で山のことをやってくれる若い人を探していると聞き、とにかく話を聞いてみようと訪ねました。そこで協力隊制度のことも知り、迷わず決めました。

これまで主に七ツ石神社の狼信仰を保存・保護するため文化財指定への働きかけをしたり、狼手ぬぐいをプロデュースしたりなど観光資源として活性化する活動を行ってきました。

狩猟免許も取得したので、狩猟という命がけの行為に宿る独特の緊張感の中で、これからどんな新しい人生観に出会えるのか楽しみです。

地域おこし協力隊とは？

地方の豊かな自然環境や歴史、文化などに注目し、自らの知識やスキルを地方で活かしてみたいと考えている都市に住む人たちがいます。

「地域おこし協力隊」とは人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、そのような地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。

丹波山村では平成26年度から数度の募集を行い、新たな想像力や行動力を持った人材を積極的に受け入れています。

【小さな村総合研究所】

小さな村が発信する「大きな魅力」。

こむら　こうじ
小村幸司さん

小さな村g7サミット

北海道音威子府村、福島県檜枝岐村、山梨県丹波山村、和歌山県北山村、岡山県新庄村、高知県大川村、熊本県五木村がボードメンバーです。第1回を2016年に丹波山村で開催し、テーマは「移住」でした。第2回は2017年に福島県檜枝岐村で開催し、テーマは「都市との交流」でした。そして第3回は2018年に「教育」をテーマに北海道の音威子府村で開催されることが決定しています。

小さな村g7サミット開催
村のためになる具体的な仕組みづくりが大切

北海道から九州まで各地域で一番小さな村七つが集まって「小さい」ことを逆手に取って情報を発信していけないかと考え、2016年5月に第1回小さな村g7サミットを丹波山村で開催しました。

その後7回まで毎年持ち回りで開催することが決まり、仕組み作りや情報発信の意味では一定の成果はありましたが、実質的なものにつなげる必要性を感じ、具体的に村のためになる活動を行っていくためのNPO法人小さな村総合研究所を立ち上げました。

現在は自家用車によるタクシー事業(有償旅客運送)を展開し、高齢者のみならず観光客にも便利な村内の足を担い、同時に副業ドライバーを増やすことで雇用にもつなげていく仕組み作りを目指しています。

「小さい」ことは決してデメリットではなく、小さいからこそドラスティックに変われたり、影響力があったり、応援してくれる人が付きやすかったりします。そして小さい村は実は助けられる立場ではなく、都市の中にこそ助けなければならない人がいて、村はそういった人たちの立ち直りを助ける補完的な役割を担えると考えています。

今後は都市の企業やNPO団体等とも連携を深めながら、村の活性化につながる様々な仕組みづくりをしていきたいです。

【文化財の継承】

これからもずっと受け継いでいきたい伝統芸能

あおやぎ　かずき
青柳和樹さん

継承と革新を続ける
文化財保存会の活動

私の祖父と父が獅子舞をやっていたので、私も弟と一緒にごく自然な流れで獅子舞をするようになりました。

父が獅子の踊り手を引退する時に弟と親子3人で舞ったのですが、その頃は演目が3つしか残っていませんでした。

一度途絶えてしまった演目を再び甦らせるには「音」が残っていることが不可欠であり、あとは踊りについての書き物がないと難しいです。それでも村のお年寄りからの聞き取りを重ねていき、全部で12種類あるうち現在7つまで復活させることができました。

保存会のメンバーは若手が多いので、今までのものをそのまま引き継いでいくのと同時に、新しいことも取り入れてチャレンジする姿勢を大切にしています。

村の人たちはみな顔見知りで、私たちのことを小さい頃から知っているので、祭りの時に温かい声で応援していただけるのはとても有り難いです。獅子舞は村の宝の一つとしてこれからもずっと受け継がれていってほしいと思います。

丹波山人
Tabayamabito

【ライダースカフェ】

丹波山の水で淹れる珈琲でライダーをもてなす

やまだ　まさかず
山田 正和 さん

通過点だったのが
立ち寄ってもらえる場所に。

私自身がバイク好きのコーヒー好きで、ツーリングの途中、各地の美味しいコーヒーの店を調べては立ち寄っていました。丹波山村にも年に2〜3回は通っていたので馴染みはあり、地域おこし協力隊の募集を知ったので応募し、県外から移住してきました。

店を始めるにあたって、韮崎のスペシャルティコーヒー専門店・増田珈琲さんと連携させていただけたのはとても幸運でした。当店が山梨初のライダースカフェであること、半径35㎞以内に自家焙煎の店が無いこと、西東京へPRできることなどが追い風となり、増田さんも快く引き受けて下さいました。

当店は「多摩里場（たまりば）」の愛称で呼ばれ、以前は村はツーリングの通過点だったのが、立ち寄ってもらえる場になりつつあるのは嬉しいです。せっかく立ち寄ってくれた方にこの村ができるおもてなしは、やはりこの土地の良さを出し提供していくことだろうと思います。カフェの食事には、地域のお年寄りの方々が地のものを使って手作りしたお惣菜を付けていて、とても好評です。

バイク業界は若い乗り手が減っていて現状は厳しいですが、皆さんが求めているものに応えるという立場で業界を少しでも盛り上げ、お客様との絆も深めていけたらと思います。

村のいいもの

山の恵み

丹波山の水や土でしか、
この味わいは出せません。

コシが決め手
たばやま
そば

食感が決め手
たばやま
こんにゃく

鮮度が決め手
たばやま
わさび

生まれ育った丹波山の地で、
理想に向かって、技を磨き続ける人がいます。
極みを目指し、精進し続けている人がいます。
こんにゃくやわさびづくり、特産品…
活躍の場は違えども、
信念を持って自らに挑み続ける人たち。
その珠玉の技と丹波山への想いを紹介します。

ウチのこんにゃくは、クセになるから食べにきてね。

粘りが出るまで練る。
その食感はたまらないよ。

見るからにみずみずしい、出来たてのこんにゃく。食べ方は色々あるが、刺身で食べるこんにゃくは抜群の食感で箸が止まらない程の絶品。丹波山のみそ、わさびで食べくらべるのがおすすめ。是非セットで手に入れたい。

村のいいもの

たばやま こんにゃく

昔はどの家庭でもこんにゃく芋を使って、自家製こんにゃくを作っていました。生食の刺し身こんにゃくはもちろん、ちぎって唐揚げにしたり、ステーキにして七味と醤油でいただくなど、食べ方も色々です。

［つくる人］
たばやまこんにゃく　河村（かわむら）良子（ながこ）さん

子どもの頃から父と母がこんにゃくを作るのを見てきて、「せっかくの村の特産物が絶えてしまっては残念なので受け継いでいきたい。」という気持ちでこんにゃく作りをしています。

こんにゃく芋は茹でて皮を向いてから練ります。練れば練るほど粘りが出て食感が滑らかになりますが、柔らかすぎでもいけないので、手に触れる感触で練り具合を判断します。それは経験と勘によるところが大きく、芋の堅さによって加えるお湯の量も違うなど、こんにゃく作りは経験則で進める部分もあります。

私のこだわりは、粉ではなく生芋をもとにこんにゃくを作っているところです。道の駅と村内の旅館でしか食べられない地のこんにゃくをたくさんの方に味わっていただきたいです。

村のいいもの

たばやま わさび漬

わさびは空気も水も澄んだ丹波山村ならではの特産品。採れたてのわさびをきざんで塩で揉み、3時間ほどおいてから酒粕を混ぜ2日漬けます。酒粕に漬けることでわさびの苦みがとれて、独特の辛みが引き出されます。

風味、キレも絶品だよ。

秘訣は丹波山の恵の水。
清流が育んだ生わさびを
使用したわさび漬け。

［つくる人］手作りわさび漬　坂本（さかもと）フジエ（ふじえ）さん

丹波山村では昔はわさびを作っている家がたくさんありました。今のようにチューブ入りのわさびなど無かったころは、築地をはじめ市場におろすと高値で売れました。

わさびは山深く清水が湧いているV字の谷で栽培するため、まず水がきれいであること、冬でも湧き水が凍らないこと、日が当たり過ぎず日陰すぎないことなど、生育条件が難しく、台風で畑が流されてしまったり、猪や鹿、猿などに荒らされる被害もあります。また、収穫後も重い荷物を背負って山を下りてこなければならないなど、非常に重労働です。

今ではわさびを栽培している家は数件になってしまいましたが、生わさびそのものの他、わさび漬けに加工して道の駅で販売しています。

わさび漬けは様々な食事に合い、ご家庭で手軽に召し上がっていただけます。丹波山の清流の恵みをたくさんの方に届けることを楽しみに、丹精こめて手作りしています。

村の流儀が、私のそばの真髄だ。

村のいいもの

たばやまそば

そばは丹波山村で古くから食べられていた郷土食で、昔はどの家でもごく当たり前にそばを育てていました。自然の風味たっぷりの新鮮なそば粉に、六対四の割合で小麦粉を混ぜ、熟練した手つきで打ち上げると、こしの強い玄人好みの本格的な手打ちそばができ上がります。

村のおばちゃんに鍛えられた、伝統のそばを召し上がれ。

［つくる人］そば処 やまびこ庵 **垰野（たおの） 剛（つよし）**さん

そば打ちしながら山で暮らせたら最高だな、と思ってサラリーマンを辞め調理学校へ通いました。そして校内の料理コンテストで丹波山村に来る機会があり、ご縁があって地域おこし協力隊として村へ移住しそば打ちをできることになりました。

朝犬の散歩をしながら美しい山や川を見られて、バイクで走れて、目の前の川で魚が釣れて、登山ができて天国のようです。狩猟の免許も取ったので、いずれは自分の獲った鳥のダシでそばを出すのが夢です。大変なこともちろんありますが、一度の人生なので思い切って来て良かったと思います。

丹波山村のそばは打つ時に踏むのが特徴で、喉越しが滑らかになり美味しくなると、昔ながらの作り方がいまでも受け継がれています。村のおばちゃんたちに村の流儀もおそわりながら、「美味しいものはみな美味しいと言う」を真髄に日々そば打ちに励んでいます。

丹波山村のそば文化はこの村独特の作り方があるようだ。ここでしか味わえない風味と喉ごしは、実際に食べないとわからない。是非村に訪れ、そば談議をしながら味わうことをおすすめしたい。

瞼の裏に、
心の奥に。
刻み込まれる、
ふるさとの記憶。

「丹波山村のじかん」

おしえてあげたい、村のいろんなコト。

まつりは村の繁栄 村の幸せと絆を深める

舞いには意志があり、そして物語がある。

昭和54年に山梨県の無形民俗文化財に指定
村の繁栄を願い、炎天のもと
獅子が勇ましく跳ね回り、魔を祓い清める

「丹波山の未来に繋げる」それを想いに熱く踊り抜く

丹波山に夏の到来を告げるささら獅子舞。毎年6月に入ると練習が始まり、小・中学生も大人たちの舞を見よう見まねで覚えていきます。

子どもたちも、いざ獅子頭を被れば「下手なものは見せられないぞ」という真剣な気持ちになり、腰を低く下ろしたり、激しく後ろに反ったりと厳しい練習を続け、祭り本番には観客の方々から「今年の獅子舞も素晴らしかった」と満足していただけるよう頑張っています。

獅子頭を被った瞬間は、みな一様にアドレナリンが出ます。そしてどんなにきつくても最後まで踊りとおします。

少子化が進み、踊り手も少なくなっていく中、この祭りはずっと継承されていくことが村民の願いです。

MOVIE 掲載のQRコードにスマホのQRコードリーダーをかざすとムービーがご覧頂けます。

丹波山村の伝統 ささら、ささらと

祇園祭（ささら獅子舞）
丹波山村の伝統行事であり、夏の到来を告げる

江戸時代から約350年の歴史を誇る獅子舞。獅子と「ささら」と呼ばれる楽器を手にした花笠、白刃が、お囃子に合わせて村内を練り歩き、各地区の神社で舞を奉納します。舞には物語があり、三頭の獅子が激しく舞う場面は見どころのひとつです。文化財保存会の若者が中心となり途絶えていた演目を復活させるなど伝統を継承しています。

迫り来る祭りの刻。
おしつぶされそうな緊張の中
皆の笑顔、笑い声…。
老いも、若きも、子ども達も、
心躍らせ、胸高鳴らせ、
村のために熱く、強く、踊り抜く

静寂の中、ささら響き、花開く、
色とりどりの花笠たち。
躍動あふれる饗宴に、
心奪われる人々の、
瞼の裏に、心の奥に、
刻み込まれる、あの夏の記憶。

絶景に会いに

朝日を見に
雲取山に登るんだ。

絶景。

富士山、南アルプスを一望するパノラマ風景

［日本百名山］ 雲取山 標高2017.1m

標高2000m級の山々が連なる奥秩父山塊。その東部に位置するのが日本百名山で東京都最高峰でもある雲取山です。

東京都、埼玉県、山梨県の三都県にまたがる雲取山は、奥多摩を代表する名峰として登山者に人気があります。

山域は秩父多摩甲斐国立公園に指定されていて、豊かな自然の宝庫として四季を通じて美しい景色が見られます。

山頂からの眺めはまさに絶景！富士山、南アルプスそして関東平野を一望するパノラマ風景が広がっています。

季節の風を感じながら、鳥のさえずりを聞きながら一歩一歩絶景に近づいていきます。

山泊。

山の時間を
贅沢に使うんだ。

山好きさん、登りにきてね！

［七ツ石山］ 村営 七ツ石小屋

小屋番の一番の醍醐味は、山が大好きな濃いキャラクターの常連さんと交流できるところです。

尾根筋ばかり好む方や、沢専門などマニアックな方も多く、話がとてもおもしろくてこちらも学ぶことが多いです。

一方で、お客さんが来ない日ならではの楽しみもあります。冬は特に美しい銀世界と深い静寂に包まれた中で純粋に小屋を守り生活をしていることに楽しさを感じます。

雲取山は初心者でも頑張れば登れる適度にチャレンジングな山だと思います。冬もコースによっては雪もさほど深くなく、雪山の入門コースとして登ることができます。

野生動物に出会えることもしばしばなので、何回でも登って楽しんでもらいたいです。

七ツ石小屋　主人
藤本（ふじもと） 多美子（たみこ）さん

Tabayama

村のパン屋さん開店！

きのした　みさ
木下美佐さん

きのした たけひさ
木下武久さん

焼きたてパンの香りと優しい笑顔で迎える
村の小さなパン屋さん。

生まれも育ちも丹波山村で、パンを作るのが好きなので、村のみなさんに焼きたてのパンを食べてもらえたらどんなにいいだろう、と思いパン屋を始めました。

国産の小麦を使い、イーストフードなど添加物は一切使わない安心して召し上がっていただけるパンを作っています。

販売しているパンは全部で10種類くらいで、男性に人気のパンはカレーパンで、女性に人気なのはお焼きです。食パンは1日8斤限定で、半斤買われるお客様も多いです。

まだ開店したばかりですが、お蔭さまでたくさんの方に来ていただいて、目当てのパンを買うために朝10時の開店前に並んで下さる方も多いです。二人でお店をやっているのでパンの製造が追いつかないという忙しくも嬉しい毎日が続いています。

戦後すぐに村でコッペパンを販売するパン屋さんがあったそうなので、当店は村で歴代2店目のパン屋さんになります。地域の方に愛され続けるパン屋さんになれるよう頑張りたいです。

Tabayama

子育て支援

安心な環境で子育てを。

山村親子留学　～自然を見て 自然を感じて 自然から学ぶ～

子育てにかかる経費は村が負担します。

- ○ 教育費（教材費・給食費・修学旅行費など）・・・ 完全無償化（小・中学生）
- ○ 医療費（０歳から中学生まで）・・・・・・・・・・・・・ 子ども医療費無料化
- ○ 住宅費（親子留学用住宅　15,000 円／月～ 20,000 円／月）
- ○ 保育費 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 無料

○ **学校教育**　創造的で人間性豊かな人財の育成教育推進

○ 英語教育の推進・・・◆ＡＬＴ、外国留学生による英会話力推進
　小学校：放課後を利用した英語教育「イングリッシュタイム」
　中学校：通常の英語の授業に加え、「全校英語」を実施

○ ＩＣＴ教育の推進・・・◆児童・生徒全員にタブレット型端末機 iPad の貸与

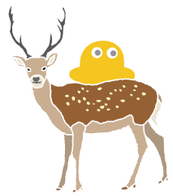
きめ細やかな指導が自慢！～少人数を強みに～

丹波山村の小中学校では、少人数であっても複式学級を実施しておりません。
そのため、非常に細やかで一人一人に目が行き届いた教育をしております。

道の駅たばやまで食べられる

地元で捕れた鹿肉が食べられる 丹波山村でならではの味わい

丹波山村で捕獲された鹿肉を使ったメニューが豊富です。丹波山産の鹿肉は適度な歯ごたえと独特の香りがあります。鹿肉カレーや鹿肉ソーセージも美味しいと評判で、ビーフやポークとは異なるその味わいは、一度食べてみることをおすすめします。



うわさの鹿肉カレー！

主な産物

味わい格別

季節の旬を堪能できる
たばやまの大自然の恵み
まごころこめた品々

たばやま新鮮野菜 元気です！ 道の駅たばやま

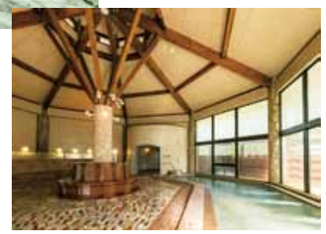
ツーリングを楽しむバイカーや家族連れでいつもにぎわう道の駅たばやま。
採れたての旬の野菜や四季折々の特産品のほか、丹波山村のマスコットキャラクターであるタバスキーグッズなど、丹波山限定のおみやげも販売しています。
特に野菜は早いもの勝ち。名物のこんにゃくやわさび漬けも大人気です。
毎年行われるじゃがいも祭り、まいたけ祭り、そば祭りなど、季節のイベントも開催しています。

まいたけ汁が大人気です

ウマいから！

食のブランド化を積極的に推進 たばやまブランド

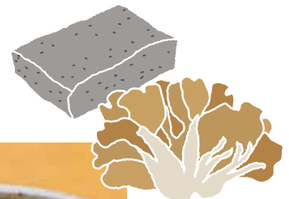
のめっこい！ まだまだあるある たばやまの恵み。



つるつる、すべすべ。くせになる、温泉の泉質。

丹波山温泉のめこい湯
泉質の良い地元の温泉

道の駅たばやまの駐車場からつり橋を渡ると、多摩川源流の名湯といわれる「のめこい湯」です。「のめっこい」とは丹波山村の方言で、「つるつる、すべすべ」という意味で、その名のとおり、湯上がり後は肌がつるつるになります。丹波川沿いの野趣あふれる景色に囲まれながらの露天風呂もひときわの風情です。



心ゆくまで 丹波山そば

食べにきてね

たべくらべも面白い こころ躍る 「秋そば」のススメ

毎年11月に開催される「秋の大収穫祭」、別名を「そば祭り」と呼ばれるほど新そばを目当てに訪れる人々でにぎわいます。
風味豊かで素朴な味わいの手打ちそばは、道の駅たばやま、丹波山温泉のめこい湯、そば処やまびこ庵のほか、村内の旅館、民宿、食堂でも召し上がれます。山菜、きのこに鹿肉と組み合わせて旬の丹波山を味わってください。
この時期は紅葉も真っ盛り、丹波山村の美しい情景を眺めながら、心ゆくまでこだわりのそばを堪能しましょう。

釣れるよ～

村営つり場

丹波川の流れを利用した村営のつり場です。初心者やファミリーでも気軽に釣りが楽しめるため、春から秋にかけては連日にぎわいます。
浅瀬では魚のつかみ取りに夢中な子どもたち。泳ぎまわる魚を追いかけ、手づかみでつかまえるスリルは格別です。
近くにはバーベキューハウスもあり、釣った魚を炭火で焼いて食べられるサービスもあります。

Village Tabayama

ふるさとの記憶

歳／時／記

お松引き　01/07
お松焼き　01/14
丹波川渓流釣り解禁　03/15
じゃがいも祭り　07/上旬
祇園祭（ささら獅子舞）　07/中旬
夏まつり丹波　07/最終日曜日
まいたけ祭り　09/下旬～10/中旬
秋の大収穫祭（そば祭り）　11/03

村議会議員

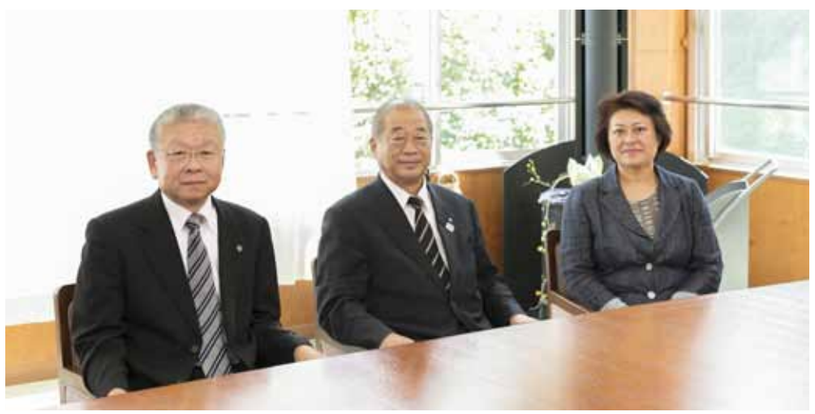
後列左から
嶋崎義人　守屋保志　守屋徳重　酒井隆幸　守屋富重

前列左から
守屋茂久　白木昭一　舩木昭和

議会と行政

幸せを感じる村を目指して村の明日を拓く

村議会は村民生活の向上と、
村の発展のために真剣に取り組んでいます。



副村長
原島秀明

村長
舩木良教

教育長
野崎喜久美

Village Tabayama

秋春冬夏

Beautiful TABAYAMA

たばやま

四季折々の丹波山村の豊かな表情。
人々の営みと豊かな自然の恵みが、
村に彩を添える

まだ残雪が残る丹波渓谷にミツバツツジが咲き始めると、それは春の訪れのサイン。山の木々はいっせいに芽吹き始め、たちまち渓谷を緑で覆い尽くします。

命の息吹があふれる躍動の季節、夏には清冽な水と空気が丹波山村の豊かな植生を育み、子ども達の水遊びの声が響きます。

村全体が美しい紅葉に彩られる季節が訪れると、「まいたけ祭り」や「秋の大収穫祭」が行われ、人々は丹波山の恵に感謝します。

そして冬。山々が白銀の衣をその身に纏う時、真っ青な空とのコントラストは思わず息を呑むほどの美しさです。それぞれの季節が輝きに溢れ、それぞれの情景に人の営みが重なり、素敵な思いを馳せる。それが丹波山村の四季です。

時をつなぐ

このむらで笑う。
このむらで語る。
あなたの夢は？

あなたはどんな夢をもっていますか？
夢は人それぞれ違うけれど、
夢に向かっている丹波山村の人々は
キラキラと輝いています。
夢を追いかけている人はみんな
生き生きとしています。
笑顔で夢を語りあいながら過ごす日々
丹波山村から、みんなの夢を届けます。
貴方もこの笑顔に会いにきてみませんか。

Life Tabayama

感動をつなぐ

このむらで遊ぶ。
このむらで過ごす。
さあ、丹波山村へ。

Play Tabayama

丹波山村勢要覧
人×地域×絆　丹波山村
2018年 3月1日　発行
編　集：丹波山村　総務企画課
発　行：丹波山村
〒409-0305 山梨県北都留郡丹波山村890
TEL 0428(88)0211
http://www.vill.tabayama.yamanashi.jp/
印　刷：株式会社サンニチ印刷

丹波山村　有形文化財
七石権現社旧社地
（七ツ石山山頂付近）

人×地域×絆
たばやま
山梨県丹波山村　村勢要覧　2018

Village Tabayama

村を愛する心、人を大切に思う優しさ、
毎日の暮らしを無事に終えられる幸せ。
丹波山村はそんな何気ないことの尊さを大事にする
人と人との絆が息づく
温もりにあふれる村です。
私たちはこの村の大地にしっかりと足を着け、
希望と充実感あふれる未来へ向けて歩んでいます。
この村勢要覧をご覧になり、
丹波山村をより身近に感じていただき、
多くの皆様がお越し下さることを
心待ちしております。

丹波山